
魔法先生ネギま！～漆黒の狙撃主と創造の錬金術師～

一撃必中

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法先生ネギま！〜漆黒の狙撃主と創造の錬金術師〜

【Nコード】

N3084R

【作者名】

一撃必中

【あらすじ】

どこにでもいる普通の少年。大学に行ってバイトをして友達と遊んで何時までもそんな時間が続くものと思っていた…

「単刀直入に言うとお主は死んでおる」神様からの突然の死亡宣告！！異世界に行ってくれ！？何ですかこのテンプレわ！？

こうなったら、新しい人生を謳歌しようじゃないか！！魔力？気？そんなもんいらん。

『俺は、狙撃主で錬金術師なんでね』

ネギま！？の世界で魔法ではなく近代兵器と錬金術で生きていける

のか？主人公は平和に生きていけるのか？さあ、新しい人生を謳歌しようじゃないか！！

epilogue

やあ皆さんはじめまして。突然だが皆さんは転生というものを信じるだろうか？

二次創作でテンプレとしてよく出てきているあれである。俺個人としては、そんなのあり得んだろ（笑）だと思っていたんだ…ん？何で過去形だった？ソレはね…

「そろそろ現実逃避を止めてくれんかの〜」

今、現在進行形でそんな展開に陥っているからですよ！！

『はあ…取りあえず今の状態の説明を要求したいのだが？』

「むう…やつと話を聞いてくれたのう。単調直入にいうとのお主はもう死んでおる」

『……………』

マジでテンプレですか…え？なに、俺なんかした？してないよね！俺普通に生きてたはず何だけど！？

「おーい、聞いているかのー」

『あ、ああ…スマン…何で俺は死んだんだ？』

「あーえーと…それはの、ちよつとした手違いがあつての…」

『…手違い？あれかよく二次創作で出てくる輪廻転生のシステムに綻びがしようじて…的な感じのものが起こったのか？』

「……………」

おい、何故黙る！！そして何故に目をそらす！？

『……………何故黙るのかな』

「……………怒らん…かの？」

『内容によるかな……………二コ』

目の前の爺さんに向けて満面の笑みを浮かべながら言う。怒ってなんていないよ？こんなに素晴らしい笑顔を浮かべているじゃないか？…ふふふふふ…

「う、うむ…それでの最近の天界ではIT化が進んでいるの、死亡すべき人の名簿もそちらで言うパソコンのようなもので一括管理するようになったのじゃ」

……………天界のIT化ってなにさ…あれか、天界にもビル・イツ的なものがいるのか？

「それで僕もそれで自分の管理する死亡者の管理をしていたのだが…急に端末が動かなくなつてのイライラしてつい端末をぶつたたいてしまったのじゃ。そしたら、何だか端末がおかしくなつて本来死ぬはずではなかつたお主がしんでしまつたねじゃ……………」

コイツハナニライツテイルノカナ

『……………じゃあなにか、俺はお前の機会音痴のために死んだと？』

「そ、そおなるの…機会が何分苦手での……………テへ」

……………ブチ

『なにが、テへだー！ー！？』いいよね！？ここはキレてもいいところだよね！？

「お、落ち着くのじゃ…！話せば分かり合えるはずじゃ…！」

「…そうか。まあ、俺が居ないことになってるんなら少なくとも俺がいなくなったことで悲しむ人はいないって事だし、そこらへんは良かったのかな…」

「すまんのう…罪滅ぼしと言っては何だがお主には好きな力を与えよう。」

力か…てか俺ってどこの世界に行くんだ？それがわからないと選べなくね？

「質問なんだが、俺はどんな世界に行くんだ？」

「ふむ。まだ言っていないかったか、お主にはネギま！？の世界に行つてもらおう」

ネギま！？の世界か、原作は一樣は読んだことはあつたな…あれって死亡率高くないか？魔法があるからな……うし、決めた。

「決まったかの？儂としては魔力と気が無限とかがいいと思うんじやが？」

「あー、魔力も気もそんなにいらなかな。せいぜい普通の魔法使いよりも多いかなーってぐらいで構わないよ」

「な、なんじゃと！？魔力も気も使い放題なんじゃぞ！？大呪文なんかも使い放題なんじゃぞ！？」

「うーん。魔法にたいしてあんまり興味ないしな…」

「興味がないって…な、ならば不老不死の体ならどうじゃ！？」

「それも、いいかな。不死に興味はないしな。でも、不老はありがたいかな世界を巡る時間もできるし。」

「これも駄目か…わかった不老だけにしておこう。」

「助かるよ。それで欲しい力、いや物かな？があるんだけど」

「ほお、どんなものじゃ？今まで以上となるとあれか、無限の剣製とか想像具現化とかかの？」

「いや、俺がほしいのはそんな大層な

物じゃないよ…まず、ガンダム〇〇に出てくる装備品一式が欲しい。もちろん生身で扱えるようにしてほしい。2つめにそれら一式が収まる蔵のようなものが欲しい。そしていつでもどこでも取り出せる用にしてほしい。』

ふむ、こんなものかな？魔法も確かにいいけど、俺が好きなのは『銃』なんだ！特に長距離から狙撃とオールレンジから攻撃に憧れた。それを完璧に満たしたのが〇〇に出てくるガンダムサバーニヤだったんだよ！！狙撃は男のロマンだぜ！！ふはははははー…
スマナイ、取り乱してしまつて。

「…………… いったいどんなとんでも能力が欲しいのかと思えば…お主のようなやつは初めてじゃよ。武器の方は問題ないついでにその武器の知識もつけておこう。蔵に関しては4次元間にある物を念じるだけで取り出せるような物でどうじゃ？」

『ああ、問題ないよ。』

「じゃがな〜…」

『うん？何か問題でもあるのか？』

何だ？問題でもあつたのか？

「あの世界は普通に魔法が存在する世界じゃぞ？お主に与える魔力と気は一般的な魔法使いより少しある程度、本当によいのか？」

むう…：そう言われると何だか不安になるな…：うーん、何か武器の運用に都合がいい能力ないかな…：
お！！あれがあつたじゃん！！

『それなら、錬金術の能力をくれないか？真理を完全に理解した状態で！！』

「ふむ、錬金術か。なる程錬金術が使えたら損失した武器の修理や、戦闘にも応用できるか…よし、それを与えよう。これで全てでよいな？」

『ああ、問題ないよ』

これだけの力があればそうそう死にはしないよな。本音を言えば争い事に巻き込まれないように静かに新しい人生を謳歌したいんだけど…無理だろうな…何故だかそんな気がする…

「それでは、お主を送りだそうとするかの」

もう時間みたいだな

『スマナイ、いろいろと助かったよ。ありがとう』

「ほおほほ、可笑しな奴じゃお主を殺してしまったのは儂じゃぞ？まさか礼を言われるとはな…」

『それでもだよ。別にわざとやったんじゃないんだし。新しい人生ももらえたしね』

「……可笑しな奴じゃ」

『よく言われるよ。それじゃあ行くよ』

「ああ、行ってこい！！」

自称神様がそう言うのと俺の体が光りに包まれた。そうして俺は意識を失った…

e p i l o g u e (後書き)

駄文だ…誰か助けて…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3084r/>

魔法先生ネギま！～漆黒の狙撃主と創造の錬金術師～

2011年4月7日12時08分発行